

ラジオ「福音の光」説教 「神さまの選び」

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。」（ヨハネの福音書 15 章 16 節）

救いから献身へ。私の母教会は「日本基督教団姫路福音教会（活水の群、末永弘海牧師 1931 年～1974 年牧会）」です。同教会に最初に増田真砂姉（実姉）が友人を通して導かれ、続いて母（富子）も末永郁牧師の訪問を受けて導かれ、末永弘海牧師より受洗の恵みに与りました（1955 年）。私は教会には時々出席していても心を開いていない状態でした。しかし高校 2 年生の時、修学旅行の際風邪を引き、亜急性腎炎を患い姫路日赤病院に入院療養を余儀なくされました。1 ヶ月程して神様に取り扱われ、自分の弱さと愚かさを示され、砕かれて聖書を読み直し、悔い改め、また信仰の先輩たちの導きにより受洗の恵みに与りました（1958 年）。1 年後に退院して高校復学後、Hi-Y（高校生の YMCA 運動）にも導かれ、更に何カ所かの聖会にも出席して祈っていた時、献身の召命を与えられたのです。そこで高校卒業（1961 年）と同時に姫路福音教会の末永牧師の許で献身者として数名の方々と共に訓練に与りました。その間、末永牧師の秘書にも携わらせて頂いたことを懐かしく覚えます。

神学校入学から姫路福音教会へ。父（俊平、1962 年受洗）が召天後（1966 年）、神様のお導きにより、東京聖書学校（日本基督教団認可校、小原十三司牧師校長）に入学し 4 年間学びの時を与えられ、訓練を受けました。そして、卒業と同時に姫路福音教会から招聘を受け、伝道師として赴任しました（1971 年）。同年 9 月に末永牧師が脚を骨折されて入院されることになり、本格的に末永牧師のご指導を仰ぎながら牧会にも携わらせて頂くようになりました。その間に日本基督教団の補教師試験、正教師試験にも合格させて頂き、結婚も許されました。教会員一同は末永牧師の癒されることを願ってひたすら祈り続けておりましたが、ご召天になられました（1974 年）。

その後、私のような者が主任担任教師として不十分ながら奉仕に与らせて頂いたであります。しかし、健康を損ない、姫路福音教会を辞任させて頂くことになりました（1982 年）。そして数年間、日本基督教団の無任所教師のまま本庄ハイツキリスト教会の協力牧師として奉仕させて頂きました。その間に腎臓病が悪化し、慢性腎不全を患い、人工透析治療を余儀無くされました（1985 年）。そして、開拓伝道の召命を受け、現在地に遣わされてきたのです（1986 年）。神様の憐れみにより 1 年後に伝道所を開設し、土地建物も与えられ、増改築工事を行い、10 年後に第 2 種教会設立にまで導かれ、2000 年に宗教法人の設立も認められ今日に至っている次第です。そして私自身

は活水の群の個人会員として交わりを許されていましたが、教会は2007年に教会会員として加入を許して頂き、今日に至っております。

柘植信仰と末永信仰。私自身は柘植不知人牧師を「ペンテコステ前後」の書物を通して、また他の説教集や活水誌を読んで垣間見るだけであります。しかし、活水学院で学んだ弟子たちにより信仰が継承され、今日に至っていることを覚えます。特に、私の恩師である末永弘海牧師は活水学院閉鎖後、坊向久正牧師（山手教会）の許に祈りの訓練を受けられました。そして姫路福音教会に遣わされ、祈りをもって牧会に尽力されましたのです。私自身、柘植不知人先生の信仰の徹底さに深く教えられています。悔い改めの徹底、献身の徹底、真剣に潔めの恵みを求め、聖霊のバプテスマに与られたこと。祈りとみ言葉に立って歩まれ、神様の顕著な御業に与られたことなど数え上げることが出来ません。末永牧師の信仰の姿勢を通して柘植牧師が追い求められたその生き方を追求しておられたことを覚えさせられております。京都での柘植先生の聖会に出席中に献身を決意され、そのまま聖会に同行し直接活水学院に入学されたこと。ご母堂様から送信された電文「汝、死に至るまで忠信なれ」（黙示録2章10節）とのみ言葉に最後まで従い通されたこと。祈りに打ち込み、み言葉に立って御用に専心され、牧会に尽力されたこと。ご自身が潔めを求められるばかりか、教会員にも聖霊の恵みに与ることを願って聖霊待望会を開き、それに命をかけておられたこと、教会員が聖書を通読されることを願って「朝毎のマナ」に続いて「一日一章」（途中で絶筆）を発行されたことなど、です。

最後に。私は柘植先生の自叙伝や説教を通して、また末永先生の信仰の姿勢を通して様々と教えられ、取り扱われていながら、自分を振り返る時、自分自身が何と不徹底な者であるのかと反省させられるばかりではなく、悔い改めさせられております。少しでも諸先生たちの信仰の姿勢に応えていく者でありたい願っております。続いて何卒お祈り下さい。